

# とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年7月29日

## 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・3歳児「園庭でいいものを見つけよう」

<テーマ設定理由>

子ども達の遊びの中で虫探しをしたり、石や葉っぱを遊びに取り入れ遊んでいる所から、園庭で自然物を探し子ども達ももっと自然に興味をもっているように思うから設定する。

## 2. 活動スケジュール

園庭遊びの中で子ども達と自然物を探す。  
(6月の園外での探索に続いて2回目)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 日頃からお世話していたかたつむりやクワガタ、当日掴まえた虫も観察する。
- 見つけた自然物を入れる箱（牛乳パックを広げたもの）

## 4. 探究活動の実践

<活動内容>

- 自然物に興味を持ち、見つけた自然物を友達や保育士に教えたり、何だろうと一緒に考える。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

園庭でいいもの探しをする3歳児  
A：築山の前で保育者に「せんせい、お山のこっち（見て）みる」と言い探し始める。  
B：築山の土管のトンネルに入っていく。Dもトンネルに入る。  
C：「お山も登ってみる？」 E、Fも築山に上る。  
EF：築山の上のヒマワリの花壇を探し始める。  
B：トンネルの中で「あ、虫！虫いた」「せんせい、トンネルの中に虫がいた」と叫ぶ。  
EF：AとBの声を聞いて土管の出口に集まる。羽が生えた虫が飛んで行ってしまふ。  
ABDE：築山から離れ、別の場所を探し始める。  
CF：「だんごむし〜」とうたいながら、築山の土管の辺りを探し、ジャングルジムに移る。

ジャングルジムの下を探し始める。  
ABDE：ジャングルジム下に、穴が開いているのを見つける。  
保育者：「なんか、穴が開いているね」  
B：「アリの巣とか？」「なんか出てくるんじゃない？」  
みんなで穴の中を覗き始める。「なんか入ってる」「動いた」  
BC：穴を眺めている。「シャベルで掘ってみる」シャベルを持ってきて掘り始める。  
BとCが場所取りをする。Bが「おれがこっちやる」というとCは別の場所を掘る。  
Fが長いシャベルを持ってきて3人で掘り始める。  
B：「なにもいないよ、せんせい」「いないよせんせい、掘っても掘っても」  
F：「どんどん掘ったら？」  
保育者：「どうして穴が開いてたんだろう」  
B：「誰かが開けた穴とか？」

Aは別の場所で何かを見つける。そのものに指差しながら保育者に「これなに？」と言う。  
干からびたミミズを見つける。  
保育者はFに「Fくん、これなに？」と聞く。  
F：「ミミズ、しんじやった」  
Dはミミズを見ているAの側に行く。腰をかがめてミミズを眺める。  
A：ミミズを自分の採集箱に入れる。  
D：「Dちゃんも見る」と言うと、Aは自分の採集箱からミミズを取り出してDに渡す。  
Aは「せんせい、こっちきて」と別の場所を探し始めると、また干からびたミミズを見つける。撮影者に満面の笑みでポーズをとりながらミミズを見せる。  
C：Aの側で干からびたミミズを見る。「ミミズはしんでると固まるから」  
A：採集箱の中に入っているミミズにシャベルで園庭の砂を掬ってかける。

別の場所でAが小さな虫を見つける。  
E：「見せて」Aの側に寄る。  
保育者：「なんだろうね、（友達に）聞いてみよう」  
A：桜の木の下にいる友達のもとへ走っていき、Bに見せる。「これなに」  
Aは見つけた虫を見せて、Bの箱に入れる。

セミの声が園庭の外から聞こえてくる。  
F：「ねえ、せんせい、セミの声」フェンスの外を眺める。声が聞こえてくる方向を眺めている。  
Cと保育者も一緒に眺めていると、セミが飛んでいく羽音が聞こえてくる。  
C：「セミのぬげがらだー」と言いながらフェンスに向かって駆け出す。（抜け殻が見えたのかは不明）

お互いに採集箱の中を見せ合っている。  
C：「せんせい、クモみたいなのがいる」と指差す。  
Eは箱の中に大きいアリを捕まえてきて保育者に見せる。  
保育者：「つかまえたの？」  
E：「あっちで」と言って指差す。  
Bが捕まえた虫をBは自分で「せんせい、これあげる」と言い、保育者の採集箱に入れる。  
E：Bが採集箱に入れるのを見て、自分で捕まえたアリをつまみ、じっくりと眺めてから保育者の箱に入れた。

F：他の場所で何かを探している。人工芝をめくり、その下にいないか探している。  
F：「きのこ」園庭隅の樹木にきのこがあるのを見つける。  
（この木には、以前きのこが生えているのを見つけて、3歳児が眺めていたことがあった）  
Fの発言に引き寄せられて、木の周りにA,B,Cが集まる。  
C：「白いキノコ？」「これ前の（前に見た時の）きのこ？」「ちがう、これ前のきのこじゃないや」  
C：「（きのこに）穴が開いてる」「こないだのきのこじゃないや」「色が違う」  
保育者は、以前に観察して撮影してあったきのこの画像を見せる。「これが、このあいだのきのこ」  
C：「ちがうよ、ちがう」「色が変わるきのこか」「夜になったら光るきのこもあるんだよ」

## 5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

- 普段から虫探しを楽しむ子ども達である。園庭のどこに虫がいることも良くわかっていて始め築山の上に行くが、暑さからか「いなかった」と初めに見つけに行った子ども保育士や友達に教えていたことからスタートした。それを聞いた子ども達は違うところ探し始め広範囲ではあったが自然物を見つけていた。見つけたものを見せ合ったり、この穴なんだろうとワクワクする気持ちを伝えたり、いろいろな言葉が聞かれ嬉しく感じた。虫だけではなく、種らしきものや何かの殻を持ってきたり、箱に入れることでみんなで見る事が出来、「なんだろうね」と一緒に聞かえることが出来た。見つけたもの箱に入れられるようにと準備したが、入れるより、そこにあるものが多かったので持って探すより、見つけた時に渡しても良かった。また、手持ち（バケツタイプ）でもよかった。しかし、最後に蟻を捕まえて箱に入れ、葉っぱや枝を見つけて蟻の遊び場を作っていたりもあったので次回は、葉っぱや枝なども自然物なので子ども達と一緒にまた探したいと思う。
- 知っていることを教え合ったり、以前に経験したことを思い返して考察している子どもの姿に感動した。集めたものをみんなで見せ合ったり、譲り合ったりすることが自然にできていて、探求活動以外での子どもの育ちも確認できたことが嬉しい。
- Aの干からびたミミズに砂をかけた行動は、埋めてあげよう、かわいそうという思いなのか。また、以前に撮影しておいた画像をその場で子どもと共有していたことがとても良かった。継続的な学びになっていると感じた。

